

話題転換時における談話標識の使用に関する日中比較

田中 奈緒美

1. はじめに

中国語を母語とする日本語学習者と日本語で話していると、話題の転換が唐突に感じられたり、こちらがまだ話し終わっていないのに別の話題に切り替わったりする等、話の進め方に違和感を覚えることがある。これは、両言語の会話スタイル (Tannen 1984) の違いからくるコミュニケーション摩擦であると考えられるが、統語的に間違った表現を使っている等というわけではないため、お互いの会話スタイルが異なっていることが認識されるのは稀である。しかし、このような摩擦は、ひどい場合には「話を聞いていない」「重視されていない」等相手への不信感につながってしまう可能性さえあり、軽視できない問題である。また、日本語母語話者が中国語を話す場合でも、日本語の会話スタイルを維持したままであったならば、中国語母語話者が違和感を覚えることもあるだろう。

本稿では、日本語と中国語の会話スタイルの差異をあきらかにするための手がかりの一つとして、話題転換方法の違いに焦点を当て、話題開始ストラテジーの一つである談話標識の使用という観点から、両言語の差異について述べる。実際の会話サンプルから得られたデータを分析することにより、実証的な結果が得られるはずである。

2. 先行研究

日本語の話題開始ストラテジーに関する研究はすでに多くなされている。中でも、話題転換に関するストラテジーの分類にいち早く取り組んだのは、メイナード (1993)、村上・熊取谷 (1995) である。しかし、分類の定義があいまいであることや、使用状況の詳細な分析が行われていないといった問題点がある。実際の会話に基づく分析を行っている研究には、木暮 (2002)、山本 (2003)、楊 (2005)、田中・崔 (2014) 等があり、分類方法や名称、定義は様々であるものの、いずれも談話標識を含む話題開始ストラテジーを扱っている。例えば、木暮 (2002) は日本語母語話者及び日本語学習者が使用した話題転換を示す表現について分析し、母語話者の話題転換表現の使用率が高いことを示した。山本 (2003) は、テレビのトーク番組を分析し、話題転換において談話標識の生起数が最も多いという結果を報告している。

一方、中国語に関する研究は、談話標識については概論 (刘 2011, 殷 2012 他) や、談話標識とその他の独立成分の弁別に取り組んだもの (张 2010)、あるいは個々の談話標識の機能や意味に関するもの (许 2008, 殷 2009 他) 等散見されるが、話題転換に特化したものは管見の限りない。中国語における話題転換ストラテジーの研究はまだ進んでいないと言える。

前述の楊 (2005) 及び田中・崔 (2014) は、日本語と中国語の比較研究である。田中・崔 (2014) は、楊の研究を発展させ、両言語各 24 組の初対面母語会話を収集、分析した。その結果、

日本語会話では、談話標識と話題の強調の使用回数が中国語と比べて多く、話題のフレームの提示とストラテジーの使用なしが中国語と比べて少ないことがわかり、ここでも、日本語会話の話題転換時における談話標識の使用の重要性が示唆されている。

このように、日本語母語会話の話題転換における談話標識の重要性を唱える研究は枚挙にいとまがない。しかし、これらの研究では「どのような話題開始ストラテジーが使用されるか」を明らかにすることに重点がおかれているため、談話標識の種類までは分析されていない。一口に談話標識と言っても、その表現は多様であり、実際にどのような表現が多く使われているのかを知ることは、その結果を教育場面に応用するために不可欠である。また、中国語母語会話の話題転換の際に用いられる談話標識の種類調査は、極めて新規性に富んでいると言える。

3. データの分析

3-1 会話サンプルと話題転換箇所

分析に用いる会話サンプルは、田中・崔（2014）の調査で得られた、日本語 24 本（男性会話 12 本，女性会話 12 本），中国語 24 本（男性会話 12 本，女性会話 12 本）の母語会話である。両言語ともに、男性 12 名女性 12 名計 24 名の協力者を募り、初対面、同性、年齢差 10 歳以上という条件のペアによる自由会話を録音した。分析には、録音音声の冒頭から 25 分間を文字資料化したものと、補足資料として音声ファイルを用いた。会話参加者や会話の収録方法の詳細については、田中・崔（2014）を参照されたい。

話題転換箇所は、田中・崔（2014）で認定されている箇所と同様で、日本語母語会話では男性会話 150 回，女性会話 139 回，計 289 回，中国語母語会話では男性会話 166 回，女性会話 136 回，計 302 回である⁽¹⁾。これらの話題転換箇所において、新しい話題が始まるきっかけとなった発話を新規話題導入発話と呼び、この新規話題導入発話に含まれる談話標識について集計を行った。

3-2 談話標識の定義

次に、本稿における談話標識の定義について考える。談話標識ということばは、日本語研究においても、近年よく用いられている。しかし、従来の国語文法的範疇の中に含まれないことばが多いこともあり、正確な分類や規定がなされていない。日本語の談話標識の分類を試みている研究には、川森・島津（1996）があるが、分類の対象としているのはファイラー等の言いよどみ表現やあいづち表現、接続表現のみである。研究によっては、文末表現を談話標識に含んでいるものもあり、日本語における談話標識という概念はあいまいであると言わざるを得ない。

田中・崔（2014）では、話題開始ストラテジーとしての談話標識を「会話の展開、内容等を示す手がかりとなる表現」としており、分類の都合上、接続詞や、「あ」や「え」など驚きを表す間投詞を含めていない。しかし、上記の定義であれば、接続詞や驚きを表す間投詞についても談話標識の一種類であることになる。本稿では、話題転換時に用いられる

話題開始ストラテジーとしての談話標識の表現をより広く集めるため、接続詞や驚きを表す間投詞を含めて、ふつう文頭に用いられて話す内容の展開に寄与する表現を談話標識と呼ぶこととする。

3-3 分析方法

田中・崔 (2014) でも、話題開始ストラテジーの集計が行われており、日本語母語会話では男性会話で 75 回、女性会話で 50 回、中国語母語会話では男性会話で 15 回、女性会話で 22 回の話題転換箇所において、談話標識が使用されたと報告されている⁽²⁾。しかしこれは、談話標識に分類される表現が現れた場合の総数であり、しかも、同一の話題転換箇所の新規話題導入発話であれば、談話標識が複数回用いられた場合でも 1 回とカウントしている。今回は、その他の話題開始ストラテジーとの比較ではなく、どのような談話標識が多く用いられるのかを明らかにしたいため、実際に使用された回数をそのままカウントする。例えば、「いやあまあ僕もやっぱりこう居合やってたんで」という新規話題導入発話では、「いやあ」「まあ」「やっぱり」「こう」という四種類の談話標識が使用されているが、田中・崔 (2014) では、同一話題転換箇所であるためまとめて 1 回とカウントされていた。しかし、今回は種類ごとにそれぞれ 1 回、計 4 回とカウントする。

4. 結果と考察

4-1 談話標識の種類と実際の使用回数

集計の結果、日本語で 33 種類、中国語で 28 種類の談話標識の使用が見られた。

表 1 使用された談話標識の種類

品詞	日本語	中国語	品詞	日本語	中国語	
代詞	その	这个 (この)	間投詞	えっと	额 (呃) (e)	
	あの	那个 (その/あの)		えー	呐 (na)	
	こう	怎么样 (どう)		いや	嗯 (ng)	
	そう			へえ	唉 (ai)	
	そんな			おお	哎 (ai)	
なに		ねえ		哦 (o)		
計	6	3		んー	啊 (a)	
接続詞	それで	那 (では)		え		
	で	那么 (では)		あ		
	じゃあ	因为 (なぜなら)		あれ		
	だから	所以 (そのため)	計	10	7	
	しかし	但是 (しかし)	複合語・等	ってことは	还有 (それに)	
	でも	不过 (しかし)		それこそ	我看 (思うに)	
	それでも	然后 (それから)		なんか	怎么说 (なんと言うか)	
ちなみに	再说 (それに)	ひょっとして				
計	8	9	計	4	3	
副詞	まあ	再 (さらに)	合計	33	28	
	もう	还是 (やはり)				
	ちょっと	果然 (やはり)				
	あと	其实 (実は)				
	やはり	反正 (どのみち)				
計	5	6				

表1は話題転換の際に用いられた両言語の談話標識の種類である。談話標識としてどのような語が用いられているのかを把握するため、便宜的に品詞によって区分している。また、中国語には筆者による日本語訳（間投詞は翻訳が難しいため中国語の発音記号であるピンイン）をつけた。品詞としては、日中両言語とも、代詞⁽³⁾、接続詞⁽⁴⁾、副詞、間投詞の他、連語や複合語に分類されるものが使用されている。

表2と表3は、両言語の会話サンプルにおいて、会話参加者が実際に使用した回数をまとめたものである⁽⁵⁾。括弧内の数字は、性別・年齢によって区分したグループごとの話題転換数における割合を表している。日本語母語会話では、男性年長者では「あの」14回、「いや」11回、「で」9回、男性年少者では「あの」8回、「その」6回、「やはり」6回の順に多かった。女性は、年長者では「あの」と「でも」がそれぞれ20回と16回で特に多く、年少者では「あの」「なんか」「やはり」がともに5回で最も多かった。全体では、「あの」47回、「なんか」22回、「で」20回という順に多いという結果となった。

表2 日本語の談話標識の使用回数（回，括弧内は%）

	男性		女性		全体		男性		女性		全体
	年長者	年少者	年長者	年少者			年長者	年少者	年長者	年少者	
その	2 (1.92)	6 (13.04)	3 (2.73)	2 (6.90)	13 (4.50)	やはり	4 (3.85)	6 (13.04)	4 (3.64)	5 (17.24)	19 (6.57)
あの	14 (13.46)	8 (17.39)	20 (18.18)	5 (17.24)	47 (16.26)	えっと	6 (5.77)	3 (6.52)	0 (0.00)	0 (0.00)	9 (3.11)
こう	0 (0.00)	1 (2.17)	3 (2.73)	0 (0.00)	4 (1.38)	えー	8 (7.69)	0 (0.00)	1 (0.91)	1 (3.45)	10 (3.46)
そう	1 (0.96)	0 (0.00)	1 (0.91)	0 (0.00)	2 (0.69)	いや	11 (10.58)	3 (6.52)	2 (1.82)	0 (0.00)	16 (5.54)
そんな	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.91)	0 (0.00)	1 (0.35)	へえ	1 (0.96)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.35)
なに	0 (0.00)	1 (2.17)	1 (0.91)	1 (3.45)	3 (1.04)	おお	0 (0.00)	1 (2.17)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.35)
それで	0 (0.00)	0 (0.00)	2 (1.82)	0 (0.00)	2 (0.69)	ねえ	1 (0.96)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.35)
で	9 (8.65)	3 (6.52)	7 (6.36)	1 (3.45)	20 (6.92)	んー	0 (0.00)	0 (0.00)	4 (3.64)	0 (0.00)	4 (1.38)
じゃあ	5 (4.81)	0 (0.00)	7 (6.36)	1 (3.45)	13 (4.50)	え	3 (2.88)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (3.45)	4 (1.38)
だから	2 (1.92)	2 (4.35)	3 (2.73)	0 (0.00)	7 (2.42)	あ	1 (0.96)	1 (2.17)	2 (1.82)	3 (10.34)	7 (2.42)
しかし	1 (0.96)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.35)	あれ	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.91)	0 (0.00)	1 (0.35)
でも	5 (4.81)	5 (10.87)	16 (14.55)	2 (6.90)	28 (9.69)	ってことは	1 (0.96)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.35)
それでも	1 (0.96)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.35)	それこそ	0 (0.00)	1 (2.17)	1 (0.91)	0 (0.00)	2 (0.69)
ちなみに	1 (0.96)	0 (0.00)	1 (0.91)	0 (0.00)	2 (0.69)	なんか	5 (4.81)	5 (10.87)	7 (6.36)	5 (17.24)	22 (7.61)
まあ	5 (4.81)	3 (6.52)	5 (4.55)	1 (3.45)	14 (4.84)	ひよっとして	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.91)	0 (0.00)	1 (0.35)
もう	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.91)	0 (0.00)	1 (0.35)	計	93 (89.42)	50 (108.70)	95 (86.36)	28 (96.55)	266 (92.04)
ちょっと	3 (2.88)	0 (0.00)	1 (0.91)	0 (0.00)	4 (1.38)	話題転換数	104	46	110	29	289
あと	3 (2.88)	1 (2.17)	0 (0.00)	0 (0.00)	4 (1.38)						

また、全体の計を見ると、談話標識は全部で266回使用されており、延べ回数で見ると全話題転換数289回の92.04%で談話標識が使用されていることになる。

表3 中国語の談話標識の種類と使用回数(回, 括弧内は%)

	男性		女性		全体		男性		女性		全体
	年長者	年少者	年長者	年少者			年長者	年少者	年長者	年少者	
这个	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.09)	0 (0.00)	1 (0.33)	其实	1 (0.74)	0 (0.00)	1 (1.09)	2 (4.55)	4 (1.32)
那个	5 (3.68)	0 (0.00)	3 (3.26)	4 (9.09)	12 (3.97)	反正	0 (0.00)	1 (3.33)	1 (1.09)	0 (0.00)	2 (0.66)
怎么样	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.09)	0 (0.00)	1 (0.33)	就是	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	2 (4.55)	2 (0.66)
那	20 (14.71)	3 (10.00)	15 (16.30)	0 (0.00)	38 (12.58)	额(呃)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.09)	0 (0.00)	1 (0.33)
那么	0 (0.00)	0 (0.00)	3 (3.26)	0 (0.00)	3 (0.99)	呐	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.09)	0 (0.00)	1 (0.33)
因为	0 (0.00)	0 (0.00)	2 (2.17)	1 (2.27)	3 (0.99)	嗯	0 (0.00)	2 (6.67)	2 (2.17)	0 (0.00)	4 (1.32)
所以	0 (0.00)	1 (3.33)	2 (2.17)	1 (2.27)	4 (1.32)	唉	0 (0.00)	1 (3.33)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.33)
但是	1 (0.74)	0 (0.00)	2 (2.17)	1 (2.27)	4 (1.32)	哎	2 (1.47)	1 (3.33)	0 (0.00)	0 (0.00)	3 (0.99)
不过	1 (0.74)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (2.27)	2 (0.66)	哦	1 (0.74)	0 (0.00)	0 (0.00)	4 (9.09)	5 (1.66)
然后	1 (0.74)	2 (6.67)	1 (1.09)	0 (0.00)	4 (1.32)	啊	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.09)	0 (0.00)	1 (0.33)
再说	1 (0.74)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.33)	还有	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (2.27)	1 (0.33)
而且	1 (0.74)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.33)	我看	0 (0.00)	1 (3.33)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.33)
再	1 (0.74)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.33)	怎么说	0 (0.00)	1 (3.33)	1 (1.09)	0 (0.00)	2 (0.66)
还是	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (1.09)	0 (0.00)	1 (0.33)	全体	35 (25.74)	13 (43.33)	39 (42.39)	18 (40.91)	105 (34.77)
果然	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (2.27)	1 (0.33)	話題転換数	136	30	92	44	302

一方中国語では、男性年長者・男性年少者・女性年長者で接続詞の「那」が最も多く、女性年少者ではフィラーである「那个」と驚きを表す間投詞「哦」が多いという結果となった。全体では「那」38回、「那个」12回、「哦」5回という結果となり、「那」の使用が圧倒的に多いことがわかる。また、全体の計は105回で、延べ回数の割合は全話題転換302回の34.77%であり、日本語の92.04%と比較するとかなり低い。

しかし、表1及び表2の数字は、それぞれの会話参加者が実際に発した談話標識の数をカウントしたものであり、それぞれの話題転換数が異なるため比較がしにくい。そこで、得られた数字から自らの話題転換10回あたりの使用回数を求めた。それをまとめたものが表4、表5である。

4-2 日本語母語会話における談話標識の使用傾向

表4の平均値を見ると、日本語話者の場合、男性年長者では「あの」1.51回、「いや」1.17回、「えー」0.81回、男性年少者では「あの」1.57回、「やはり」1.21回、「でも」1.12回の順に

多かった。女性年長者でも、やはり「あの」が最も多く1.78回、続いて「でも」1.43回、「じゃあ」0.72回であった。以上3グループにおいては「あの」が第一位であったのに対し、女性年少者は、「なんか」2.71回、「あの」2.14回、「やはり」1.81回となり、「なんか」が最も多くなっている。全体では、「あの」1.75回、「なんか」1.21回、「やはり」0.92回、「でも」0.86回、「その」0.60回の順に多いという結果となった。

表4 話題転換10回あたりの談話標識の使用回数（日本語）（回）

	男性						女性						参加者全体 n=24		
	年長者 n=6			年少者 n=6			年長者 n=6			年少者 n=6					
	平均値	中央値	S.D.	平均値	中央値	S.D.	平均値	中央値	S.D.	平均値	中央値	S.D.	平均値	中央値	S.D.
その	0.26	0.00	0.37	1.00	0.00	1.53	0.29	0.00	0.42	0.83	0.00	1.27	0.60	0.00	1.08
あの	1.51	1.71	0.81	1.57	1.71	1.24	1.78	1.15	1.61	2.14	0.00	3.67	1.75	1.43	2.15
こう	0.00	0.00	0.00	0.24	0.00	0.53	0.29	0.00	0.42	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.37
そう	0.06	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.27	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.16
そんな	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.16	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.09
なに	0.00	0.00	0.00	0.24	0.00	0.53	0.13	0.00	0.29	0.28	0.00	0.62	0.16	0.00	0.45
それで	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.11
で	0.79	0.54	0.79	0.67	0.00	0.94	0.60	0.37	0.64	0.24	0.00	0.53	0.57	0.00	0.77
じゃあ	0.50	0.55	0.40	0.00	0.00	0.00	0.72	0.77	0.43	0.28	0.00	0.62	0.37	0.00	0.50
だから	0.23	0.00	0.33	0.67	0.00	1.49	0.29	0.00	0.41	0.00	0.00	0.00	0.30	0.00	0.83
しかし	0.14	0.00	0.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.17
でも	0.49	0.00	0.69	1.12	1.21	0.98	1.43	1.31	0.82	0.42	0.00	0.93	0.86	0.57	0.96
それでも	0.06	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.08
ちなみに	0.09	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.16	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.14
まあ	0.48	0.26	0.60	0.71	0.00	1.09	0.44	0.19	0.54	0.21	0.00	0.47	0.46	0.00	0.74
もう	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.10
ちょっと	0.27	0.00	0.42	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.25
あと	0.22	0.00	0.31	0.17	0.00	0.37	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.26
やはり	0.38	0.19	0.43	1.21	0.71	1.31	0.30	0.19	0.36	1.81	0.83	2.38	0.92	0.19	1.52
えっと	0.62	0.61	0.53	0.71	0.00	1.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.91
えー	0.81	0.67	0.85	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.14	0.21	0.00	0.47	0.27	0.00	0.58
いや	1.17	0.54	1.14	0.71	0.00	1.09	0.14	0.00	0.32	0.00	0.00	0.00	0.51	0.00	0.93
へえ	0.12	0.00	0.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.14
おお	0.00	0.00	0.00	0.24	0.00	0.53	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.29
ねえ	0.09	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.11
んー	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.41	0.47	0.32	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.24
え	0.26	0.19	0.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.21	0.00	0.47	0.12	0.00	0.30
あ	0.06	0.00	0.14	0.24	0.00	0.53	0.13	0.00	0.19	1.25	0.00	1.91	0.42	0.00	1.11
あれ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.15
ってことは	0.12	0.00	0.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.14
それこそ	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.75	0.13	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.42
なんか	0.53	0.54	0.48	0.98	0.50	1.11	0.63	0.75	0.50	2.71	0.63	3.71	1.21	0.61	2.16
ひょっとして	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.27	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.14
全体	9.27	8.56	3.09	10.81	10.00	4.21	8.59	8.23	2.22	10.58	10.00	4.97	9.81	10.00	3.88

日本語では、性別や年齢に関わらず、会話の流れを大きく左右する接続詞等の使用は少なく、「あの」や「なんか」といったフィラーや婉曲表現が用いられることが多くなっている。男性年少者や女性年長者による使用が多い接続詞「でも」についても、話題転換箇所では

用されているということは、本来の逆接の意味を表すものではなく、岩澤（1985）のいう「転換」に分類されるものということになる。

また、談話標識全体の平均値を見ると、男性年長者 9.27 回、女性年長者 8.59 回、年少者に至っては、男性 10.81 回、女性 10.58 回となっており、回数だけでみると、話題転換の際には何らかの談話標識を使っているという計算になり、日本語母語話者の談話標識の使用の多さが見て取れる。

4-3 中国語母語会話における談話標識の使用傾向

表5 話題転換 10 回あたりの談話標識の使用回数（中国語）（回）

	男性						女性						男女全体		
	年長者			年少者			年長者			年少者			平均値 中央値 S.D.		
	平均値	中央値	S.D.												
这个	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.11
那个	0.27	0.00	0.46	0.00	0.00	0.00	0.27	0.00	0.41	0.97	0.67	1.03	0.38	0.00	0.70
怎么样	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.22	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.12
那	1.56	1.87	0.80	0.61	0.00	0.87	1.76	1.46	1.15	0.00	0.00	0.00	0.98	0.71	1.09
那么	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.29	0.00	0.66	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.35
因为	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.18	0.00	0.39	0.11	0.00	0.25	0.07	0.00	0.24
所以	0.00	0.00	0.00	0.28	0.00	0.62	0.18	0.00	0.39	0.24	0.00	0.53	0.17	0.00	0.47
但是	0.19	0.00	0.41	0.00	0.00	0.00	0.21	0.00	0.47	0.28	0.00	0.62	0.17	0.00	0.45
不过	0.10	0.00	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.25	0.05	0.00	0.17
然后	0.05	0.00	0.12	1.00	0.00	1.83	0.09	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.28	0.00	1.01
再说	0.10	0.00	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.12
而且	0.05	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.06
再	0.05	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.06
还是	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.11
果然	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.75	0.08	0.00	0.40
其实	0.07	0.00	0.16	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.22	0.69	0.00	1.01	0.22	0.00	0.59
反正	0.00	0.00	0.00	0.28	0.00	0.62	0.09	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.35
就是	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.39	0.00	0.62	0.10	0.00	0.35
额（呃）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.11
呐	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.23	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.12
嗯	0.00	0.00	0.00	0.72	0.00	1.22	0.19	0.00	0.41	0.00	0.00	0.00	0.23	0.00	0.71
唉	0.00	0.00	0.00	0.28	0.00	0.62	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.33
哎	0.16	0.00	0.23	0.28	0.00	0.62	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.35
哦	0.06	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.17	0.00	1.86	0.31	0.00	1.06
啊	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.11
还有	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.24	0.00	0.53	0.06	0.00	0.29
我看	0.00	0.00	0.00	0.56	0.00	1.24	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.67
怎么说	0.00	0.00	0.00	0.83	0.00	1.86	0.09	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00	0.23	0.00	1.00
全体	2.66	2.77	0.96	4.83	3.67	2.39	4.01	3.88	1.78	4.53	4.17	3.08	3.63	3.81	2.54

次に中国語を見る。表5を見ると、男性年長者では「那」1.56回、「那个」0.27回、「哎」0.16回、男性年少者では「然后」1.00回、「怎么说」0.83回、「嗯」0.72回、女性年長者では「那」

1.76回、「那么」0.29回、「那个」0.27回、女性年少者では「哦」1.17回、「那个」0.97回、「其实」0.69回の順に多く、全体では、「那」0.98回、「那个」0.38回、「哦」0.31回となっている。年長者では「那」が飛び抜けて多く、その他の表現は少数に留まっているが、年少者では頷きの表現である「嗯」や「哦」の使用、あるいは言いよどみを表す「怎么说」「那个」、説明を加える「然后」「其实」等の表現が多くなっている。これは接続詞としての「那」を文頭に伴う発話がしばしば質問文であることと関係しているように思われる。つまり、「那」は「相手に発話を要求する」表現であり、話題を変えつつさらに相手に発話を求めるというダイナミックな発話は、年少者から出にくかったのではないだろうか。実際に、「那」を用いた新規話題導入発話を見ると、38回中32回が相手に質問する形の発話となっている。一方、「然后」や「其实」を用いた発話8回のうち、相手への質問は1回で、その他の発話はすべて自分の考え等を叙述するものがある。新規話題導入発話における談話標識の選択が、会話相手に対する接し方に関連しているということを表しており、大変興味深い。

なお、表5の談話標識全体の使用回数を見ると、男性年長者2.66回、男性年少者4.83回、女性年長者4.01回、女性年少者4.53回となっており、男性年長者で使用が特に少ない以外は、特段の差はないようである。田中・崔（2014）においても、日本語は中国語と比べて談話標識と話題の強調の使用回数が多いことが指摘されているが、本稿の結果においても、中国語会話では、日本語会話と比べて、談話標識の使用が極めて少ないことがわかる。

4-4 談話標識の使用人数

ここまで表4、表5の平均値によって考察を進めてきたが、各表の中央値や標準偏差を見ると、談話標識の使用は個人差が大きいことがわかる。日本語は、「あの」「でも」「やはり」「なんか」以外の談話標識の中央値は0回であるし、中国語に至っては、「那」以外の中央値は全て0回である。そこで、各談話標識の使用人数について調べた。表6は日本語会話、表7は中国語会話についてまとめたものである。

その結果、日本語会話では「あの」（17名）、「でも」（13名）、「なんか」（13名）、「やはり」（12名）の4つの談話標識について、半数以上の会話参加者による使用があったのに対し、中国語会話で半数を超えたのは「那」（13名）のみであった。中国語の次点は「那个」であるが、使用人数は7名と、全体の3分の1にも及ばない。使用された談話標識の種類としては、日本語のほうが5種類多いものの、大差はないように思われたが、大多数が用いる一般的な談話標識は、中国語では「那」のみということとなり、この点からも中国語において話題転換時の談話標識の使用が少ない理由が見えてきそうである。

表6 日本語の各談話標識の使用人数(人)

	男性		女性		計
	年長者	年少者	年長者	年少者	
その	2	2	2	2	8
あの	6	4	5	2	17
こう	0	1	1	0	2
そう	1	0	1	0	2
そんな	0	0	1	0	1
なに	0	1	1	1	3
それで	0	0	2	0	2
で	4	2	3	1	10
じゃあ	4	0	5	1	10
だから	2	1	2	0	5
しかし	1	0	0	0	1
でも	2	4	6	1	13
それでも	1	0	0	0	1
ちなみに	1	0	1	0	2
まあ	3	2	3	1	9
もう	0	0	1	0	1
ちょっと	2	0	1	0	3
あと	2	1	0	0	3
やはり	3	3	3	3	12
えっと	4	1	0	0	5
えー	3	0	1	1	5
いや	5	2	1	0	8
へえ	1	0	0	0	1
おお	0	1	0	0	1
ねえ	1	0	0	0	1
んー	0	0	3	0	3
え	3	0	0	1	4
あ	1	1	2	2	6
あれ	0	0	1	0	1
ってことは	1	0	0	0	1
それこそ	0	1	1	0	2
なんか	4	3	4	2	13
ひょっとして	0	0	1	0	1

表7 中国語の各談話標識の使用人数(人)

	男性		女性		計
	年長者	年少者	年長者	年少者	
这个	0	0	1	0	1
那个	2	0	2	3	7
怎么样	0	0	1	0	1
那	5	2	6	0	13
那么	0	0	1	0	1
因为	0	0	1	1	2
所以	0	1	1	1	3
但是	1	0	1	1	3
不过	1	0	0	1	2
然后	1	2	1	0	4
再说	1	0	0	0	1
而且	1	0	0	0	1
再	1	0	0	0	1
还是	0	0	1	0	1
果然	0	0	0	1	1
其实	1	0	1	2	4
反正	0	1	1	0	2
就是	0	0	0	2	2
额(呃)	0	0	1	0	1
呐	0	0	1	0	1
嗯	0	2	1	0	3
唉	0	1	0	0	1
哎	2	1	0	0	3
哦	1	0	0	2	3
啊	0	0	1	0	1
还有	0	0	0	1	1
我看	0	1	0	0	1
怎么说	0	1	1	0	2

5. まとめ

本稿では、日本語母語会話及び中国語母語会話の新規話題導入発話で用いられる談話標識についてその使用傾向を集計、分析した。

日本語母語会話では33種類、中国語母語会話では28種類の談話標識が用いられ、品詞としては、両言語とも、代詞、接続詞、副詞、間投詞の他、連語や複合語に分類されるものが使用されていた。

日本語母語会話において使用回数が多いものは、「あの」、「なんか」、「やはり」、「でも」、「その」で、性別や年齢に関わらず、会話の流れを大きく左右する接続詞等の使用は少なく、フィラーや婉曲表現が用いられることが多くなっている。また、使用人数についても、「あの」、「でも」、「なんか」、「やはり」の4つの談話標識について、半数以上の会話参加者による使用があった。

一方、中国語母語会話では、年長者では「那」が圧倒的に多く、その他の表現の使用は少ないが、年少者では頷きや言いよどみを表す表現、説明を加える表現が多く使用されていた。使用人数で全会話参加者の半数を超えたのは「那」のみであるため、中国語の話題

転換の際に一般的に使用される談話標識は「那」と考えられる。

このように、話題転換の際に一般的に用いられる談話標識は、日本語のほうが種類としても回数としても多いという結果となった。さらに、日本語で多く用いられる談話標識にはフィラーや婉曲表現が多いのに対し、中国語で多く用いられる「那」は接続詞であり、会話の流れに大きく関わるものであった。

なお「那」に関しては、会話の流れに大きく関わるという機能により年少者による使用が制限されているようである。村上・熊取谷（1995）で報告されているように、話題開始ストラテジーの使用と隣接する話題の内容的な関連性には関連があると考えられるため、今後は、話題の関連性や新規話題導入発話全体の機能（相手に対する質問であるのか、自己の状況の説明であるのか、等）との関連についても研究の必要があるだろう。

また、今回の会話サンプルは会話ペアに年齢差があったことから、日本語母語会話においても中国語母語会話においても、年少者からの話題転換が非常に少なく、量的に十分なデータであるとは言い難い。さらに、West & Garcia（1988）他で指摘されているように、会話の相手が誰であるかによって話し方は異なってくると考えられるため、年齢差等の条件を変えた会話サンプルをさらに収集し、日本語と中国語の話題転換方法についてさらに研究を続けていきたい。

注釈

- (1) 田中・崔（2014）p54
- (2) 田中・崔（2014）p56
- (3) 日本語と中国語では品詞区分が異なるため、日本語にはない「代詞」という区分を設けた。日本語では、代名詞「こ」「そ」「あ」が活用された連体詞や副詞及び形容動詞、疑問代名詞「なに」を「代詞」に分類している。
- (4) 中国語の「那」「那么」は、本来は代詞に分類される語であるが、今回は主に発話の冒頭に用いられるものを対象としているため、機能の面から接続詞として分類した。
- (5) 「あのー」や「やっぱり」のように長音化や促音化するもの等もそれぞれ含む。

参考文献

- Tannen, D. (1984) *Conversational Style: Analyzing Talk Among Friends*. Ablex
- メイナード, K. 泉子 (1993) 『会話分析』くろしお出版
- 村上恵・熊取谷哲夫 (1995) 「談話トピックの結束性と転換構造」『表現研究』62, 101-111.
- 木暮律子 (2002) 「日本語母語話者と日本語学習者の話題転換表現の使用について」『第二言語としての日本語の習得研究』5, 5-23.
- 山本綾 (2003) 「話題転換についての一考察—アメリカと日本のテレビのトーク番組を資料として」『えちゅーど』33, お茶の水女子大学大学院英文学会, 57-81.
- 楊虹 (2005) 「日本語母語話者による初対面会話に用いられる話題転換ストラテジー」『言語文化と日本語教育』30, 83-86.

- 田中奈緒美・崔沫舒 (2014) 「話題転換ストラテジーの使用傾向から見る話題転換方法の日中比較」『中国語話者のための日本語教育研究』 5, 47-61.
- 刘丽艳 (2011) 《汉语话语标记研究》，北京语言大学出版社
- 殷树林 (2012) 《现代汉语话语标记研究》，中国社会科学出版社
- 张洋 (2010) 汉语口头话语标记与独立成分的区别，佳木斯大学社会科学学报 Vol.28 No.4, 53-54
- 许家金 (2008) 汉语自然会话中话语标记“那(个)”的功能分析，语言科学 Vol.7 No.1, 49-57
- 殷树林 (2009) 话语标记“这个”、“那个”的语法化和使用的影响因素，外语学刊 Vol.4, 92-96
- 川森雅仁・島津明 (1996) 「談話標識語の形式と機能について」『電子情報通信学会技術研究報告』 96(46), 電子情報通信学会, 27-32
- 岩澤治美 (1985) 「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』 56, 日本語教育学会, 39-50
- West, C. & Garcia, A. (1988) Conversational shift work: A study of topical transitions between women & men: Social Problems. 35, 551-573.